



国 語 問 題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は二十二ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合し確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消し残さずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は楷書で正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六〇分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	

(一) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

萱野稔人はフーコーの言う暴力を解説して、「暴力は、相手の身体にそなわっている力能を物理的に上まわる力によって、その身体を特定の状態(監禁、苦痛、死……)に置くように作用する」と述べている。権力が相手の行為に働きかけて、相手に行為させるのに対し、暴力は相手の身体に働きかけて、相手を特定の状態に置く。つまり、権力は相手の行為する力を利用するが、暴力は行為する力そのものを抑え込む。

フーコーが暴力を定義するにあたって、「受動性」の語を引き合いに出していることは非常に興味深い。そしてこの説明は的確である。

暴力関係において、暴力を振るう者は能動的な立場にいて、暴力を振るわれる者は受動的な立場にいる。¹暴力の行使が成功した場合、相手は完全に受動的な状態に置かれる。その意味で、暴力関係は能動と受動の対立のなかにある。

では、権力関係においては、権力を行使する側と行使される側の関係はどうなっているか？

ここで注意しなければならないのは、権力関係において権力を行使される側にいる者は、ある意味で能動的だということである。権力を行使される側は、行為するのであるから。「権力の関係においては、行為者に多少なりとも「能動性」が残されている」。

a、「される」なのに「する」、「する」のに「される」の状態にある行為はどう形容されるべきか？

便所掃除を例に考えてみよう。嫌がる相手に便所掃除をさせるためにはどうすればよいだろうか？

b、相手の手にブラシをもたせ、その手をつかんで動かすといったやり方が想像できる。 c、そうすれば相手に便所掃除をさせることができる。

に便所掃除をさせることができる。

d、そうやって相手の自由を奪えば、その結果として産出されるのは、何らかの行為ではなく、単なる身体の受動的

な状態である。 e、相手に便所掃除をさせたいのに、事実上、自分が便所掃除をするはめに陥ってしまうのである。

相手に便所掃除をさせるためには、相手が、ある程度自由であり、ある意味で「X」でなければならない。権力はそのような条件を利用してはじめて、相手に便所掃除をさせることができる。

たとえば、「便所掃除をしなければおやつをあげない」といって相手に便所掃除をさせることができたならば、これは権力による行為の産出である。そのとき、権力行使の対象となっている人間は、ある程度自由であり、またある程度の「能動性」を残されている。おとなしく言うことを聞くか、この酷いやり方に抗議するか、そうした可能性のなかで行為しうる「能動性」である。

この例はもっと恐ろしい内容に変えることができる。権力行使の手段をおやつではなく、アレント*がカツアゲの事例で持ち出した銃に変えても事態は変わらない。それは、相手の行為に働きかけて、相手に行為させる、そして行為のあり方を規定するよう作用する行為である。

武器で脅して便所掃除をさせるのは、武器が出てきているため一見したところ暴力の行使のように思われるかもしれない。しかし、そうではない。萱野が明確に述べている通り、これは権力の行使とみなされなければならない。武器はこの場合、行使可能性に留まっているからだ。相手には、おとなしく服従するか、相手の暴力に対峙するか、それとも逃げ出すか、そうした可能性のなかで行為しうる「能動性」が残されている。

それに対し暴力は「あらゆる可能性を閉ざす」のだった。つまり、先ほどあげた、相手の手にブラシをもたせ、その手をつかんで動かすという事例こそは暴力行使の事例である。

こう考えると、暴力には大きな限界があることが分かる。暴力は相手の身体を押さえ込み、受動性の極に置く。したがって、そこからは行為を引き出すことができない。言い換えれば、「暴力の行使それ自体によつては服従を獲得できない」。服従を獲得するためには、暴力は行使可能性のうちに留まっていなければならない。

フーコーは「権力のあるところには抵抗がある」と述べているが、これは抵抗の可能性が減少するとともに、行為を規定しつつ産出するという権力の効力も減少してしまうことを意味する。抵抗できないほどに衰弱している相手には、便所掃除をさせることもできない。

権力と暴力が混同されがちであるのは、権力がしばしば暴力を利用するからである。暴力が行使可能性に留まりつつも効力を発揮するためには、権力を行使される相手がその暴力の恐ろしさを理解していなければならぬ。したがって権力は、暴力の恐ろしさを理解させるために、暴力を限定的に用いることがある。

その際、暴力をどの程度限定するかによって権力の効力が規定される。たとえば相手を立ち上げられないほどに殴りつければ、その相手はもはや行為ができず、権力の効力は限りなくゼロに近づく。つまり、権力は十分に効力を発揮できない。繰り返すが、権力の行使は、行使される側のある種の「能動性」を前提にしているからである。権力はたしかに暴力を限定的に用いることができるが、Y。

ではこのとき、権力を行使される側に見出される、ある種の「能動性」をどう理解したらよいだろうか？ 権力によって便所掃除させられる者は能動的であると、そう言うべきなのだろうか？

いや、むしろ次のように問うべきであろう。暴力は相手を受動性のもとに置くのだった。暴力を振るう側は「する」立場において能動的であり、暴力を振るわれる側は「される」立場において受動的である。では、権力行使に見出されたある種の「能動性」は、この暴力行使における能動性と同じものであろうか？

両者が異なっていることは明白である。武器で脅されて便所掃除させられる者は、進んで便所掃除をする、と同時に、便所掃除をイヤイヤさせられているからだ。権力行使においては、たしかに相手がある程度の自由が与えられているが、その自由は、いわゆる受動性としては理解できないのはもちろんのこと(たしかに行為しているから)、いわゆる能動性としても理解できない(行為させられているわけだから)。

つまり、権力行使における行為者の有り様を「する」と「される」の対立で説明することはできないのである。フーコーの権力論は、いわゆる能動性と受動性の対立を疑わせるものである。権力によって動かされる行為者は能動的でもあり受動的でもある(あるいは、能動的でも受動的でもない)。

この点は、あるときはうまく理解されず、またあるときは小難しい議論(権力の対象である主体は「他律としての自律」である

云々の対象となった。しかし、権力の様態が特殊なものに思えるのは、すべては能動と受動の対立で説明できると信じられているからに過ぎない。

権力の関係は、能動性と受動性の対立によってではなく、能動性と中動性の対立によって定義するのが正しい。すなわち、行為者が行為の座になっているか否かで定義するのである。

権力を行使する者は権力によって相手に行為をさせるのだから、行為のプロセスの外にいる。これは中動性に対立する意味での能動性に該当する。権力によって行為させられる側は、行為のプロセスの内にいるのだから中動的である。

武器で脅されて便所掃除させられている者は、それを進んですると同時にイヤイヤさせられてもいる。すなわち、単に行為のプロセスのなかにいる。能動性と中動性の対立で説明すればこれは簡単に説明できることである。能動と受動の対立、「する」と「される」の対立でこれを説明しようとするからうまくいかないのだ。

こう考えると、暴力と権力をきちんと区別せず、両者を曖昧に重ねてしまう考え方というのは、能動性と中動性の対立で理解すべきであるものを、無理やりに、能動性と受動性、「する」と「される」の対立に押し込む考え方だと言えるだろう。フーコーが権力概念の刷新のために相当苦勞しなければならなかったのも、能動性と中動性の対立がもはや存在せず、すべてが能動性と受動性で理解されてしまう、そのような言語＝思想的条件があったからである。

(注)
(國分功一郎『中動態の世界 意志と責任の考古学』による)

* フーコー……ミシェル・フーコー(一九二六―一九八四)、フランス出身の哲学者、思想家。『監獄の誕生』などの著作がある。

* アレント……ハンナ・アレント(一九〇六―一九七五)、ドイツ出身の哲学者、思想家。『暴力について』などの著作がある。

問一 空欄

a

く

e

よ。

に入る語の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

① a では

b たとえば

c たしかに

d しかし

e すなわち

② a また

b ところで

c むしろ

d しかし

e では

③ a では

b ところで

c たしかに

d むしろ

e つまり

④ a ところで

b たとえば

c そして

d つまり

e しかし

⑤ a また

b ところで

c しかし

d むしろ

e つまり

問一 空欄

X

に入る最も適切な語を次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

① 抑圧的

② 暴力的

③ 生産的

④ 能動的

⑤ 服従的

問三 空欄 Y に入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 権力の行使は暴力の側面を持つ
- ② 暴力の行使は権力の目的と対立する
- ③ 暴力の有り様は究極の受動性である
- ④ 権力と暴力は同一の目的を持つ
- ⑤ 受動性と能動性の両方をかねそなえている

問四 傍線1「暴力の行使が成功した場合、相手は完全に受動的な状態に置かれる」とあるが、なぜか。その説明として最も適切

なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 権力の行使は、しばしば暴力を限定的に用いることで暴力の恐ろしさを相手に理解させることができるから。
- ② 暴力と権力の行使の関係には、能動性と受動性の対立のほかに、能動性と中動性の対立を想定することができるから。
- ③ 暴力の行使は、行為を規定しつつ産出することで、暴力のみならず、権力の効力をも減少してしまうことがあるから。
- ④ 暴力の行使は、相手の行為に働きかけて、ある程度の自由を与え、能動性を残しているから。
- ⑤ 暴力の行使は、相手の行為する力そのものを押さえ込み、あらゆる可能性を剥奪してしまうから。

問五 傍線2「暴力には大きな限界があることが分かる」とあるが、なぜか。解答欄に記した「から」に続くように本文中より一四字でそのまま抜き出せ。(句読点も字数に含む)

問六 傍線3「権力行使」における権力の関係は本文中においてどのような考え方として説明されているのか。本文中の言葉を用いて解答欄に記した「考え方」に続くように三五字以内で述べよ。(句読点も字数に含む)

問七 本文には、次の一文がある段落の末尾から欠落している。どこに入るのが最も適切か。入るべき箇所の直前の五字を抜き出せ。(句読点も字数に含む)

【脱落文】この事例では力が直接に身体に働きかけており、その身体には、手を強制的に動かされる以外の可能性は閉ざされている。

問八 本文の内容と最も合致するものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① これまで暴力と権力はしっかりと区別されず、ともに「する」と「される」の対立と理解されてきたが、フーコーの権力論はこのような考え方に疑問を提示するものだった。
- ② 権力の行使の過程で、暴力を限定的に使うことがあるが、これは結果として相手を極度に受動性のもとに置き、服従させてしまう点において、暴力と権力は表裏一体の関係にある。
- ③ 暴力は相手の行為する力そのものを完全に抑え込み、目的の遂行を果たそうとするが、その過程において武器を持ち出さないように努めることが理想的である。
- ④ 権力は相手の行為に働きかけて、常に相手に自由に行為させることを目標とするが、その時権力の対象である主体は他律と自律の中間に位置している。
- ⑤ 武器で脅されて便所掃除をする者は、完全に受動的な状態に置かれており、その行為のプロセスのなかで、いつでも自由を奪われる可能性がある。

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ひっそりうずくまっていた時間が急に息を吹き返し、一筋、風が通り過ぎていった。

——小川洋子『夕暮れの給食室と雨のプール』

日本人は、正月の空を、特に「初空^{はつぞら}」と呼んで、新しい気分にあたる。江戸時代後期に、庶民の生活感情を、時に
A 俳
人小林一茶は、「壁の穴や我初空もうつくしき」と、みずからの貧しい暮らしの象徴として「壁の穴」を持ち出し、そこから見える
わが家の初空も存外捨てたものではないと興じた。

秋になると、「うつくしや障子の穴の天の川」と、今度は破れ障子からのぞき見える銀河をほめ、やはり一茶は、貧しさを楽し
んでいる風情を見せる。

その前の夏の季節には、日本ではきつと、団扇^{うちわ}の風が客へのささやかなもてなしだったにちがいない。もちろん、大空を吹き
わたり、繁った木々の間をすり抜ける、自然の緑の風が、爽やかさを運び届ける何よりの贈り物だったことだろう。

だが、いくら世の中に涼しい風が吹きわたっていても、自分の住んでいる家まで吹いて来なければ、そういう恩恵にはあずか
れない。大店の建ち並ぶ表通りを吹きぬける風も、その広い通りから狭い路地に入り、また曲がって、さらに細い路地まで達す
るころには、さすがの涼しい風も心なし生暖かく感じられたかもしれない。そういう路地の奥の長屋住まいを、一茶は「涼風^{すずかぜ}
曲がりくねって来たりけり」と、ひねくれてみせる。

¹ どの句にも作者の人柄がしみこんでいるが、一茶の場合は、ひがみを文学にしてみせる斜に構えた季節感がおかしく、その遊
び心が読者をとりこにする。

時代は下り、室生犀屋²にも、「わらんべの洩^{はな}も若葉を映しけり」といった、意表をつく一句があつて、思わず読者の口もとがほ
ころびる。子供が鼻の下にたらししている涙水に、よく見ると、背景の若葉、その新緑が映っているというのだ。おそらくこれま

で誰も考えたことのない「凍水」と「若葉」との出あいが新鮮だ。読者にとつても、まったく思いがけない美と醜との一瞬の交差、それは自然と人との偶然のめぐりあいでもあった。

この節の冒頭に見出しとして掲げた一文は、さりげない季節感のうちに³《心理的時間》を描きとつた、象徴性の高い一行と言えるだろう。

主人公の「わたし」は、周囲の反対を押し切るように結婚をきめ、やがて夫と二人の新居とするはずの家に、ジュジュという愛犬を連れて、一足先に住み始める。三週間後には、二人だけで式を挙げて、ここに住むことになるので、それまでにあちこち家の手入れをし、生活用品もひととおりそろえておかなければならない。

そんな気ぜわしいある雨の日に、玄関のプザーが鳴った。出てみると、三歳ぐらいの男の子を連れて、三〇代に見える見知らぬ男が立っている。どうやら宗教の勧誘らしく、難儀に苦しんでいないかと問いかけてくる。

相手が飾りけのない慎ましい態度なので、とまどいながらもきちんと答えようと、「冬の雨も、雨に濡れた長靴も、玄関に寝そべる犬も、難儀といえは難儀」だが、「あなたはそこに立っている。質問は宙を漂ってる。わたしはここにいる。ただそれだけのことで」、その間には何のつながりもない、「犬の気持ちにお構いなく、雨が降るみたいに」、そんなことをほそほそ口に出していると、相手は「すばらしく的確なお答え」だと、丁寧なおじぎをして、そのまま帰って行った。

その数日後の、ある風のない昼下がりに、犬を連れて散歩に出た折、犬に引かれるまま土手下の小学校に下りると、裏門の近くで例の親子に出会った。給食室を眺めていたらしく、「千個のパン、千匹のえびフライ、千切れのレモン、千本の牛乳……」というものを想像できるかと、男はまじめな顔で、えびフライづくりの工程を事細かに説明する。

それからさらに一〇日ほど経ったある夕暮れ、やはり犬を連れて散歩に出た折に、学校の校庭で、またその親子に会う。男は短い沈黙をはさんで、「夕暮れの給食室を見ると、僕はいつも雨のプールを思い浮かべるんです」と話を切り出した。まるで「現代詩の一行」か「童謡の一節」のようなそのことを理解しかねている「わたし」に、小学校時代の体験を語りだした。泳げないことから来る水の恐怖、泳げないしるしに赤い帽子をかぶらされる恥ずかしさ、寒さと情けなさで震えていた雨の日のプール。給

食堂をのぞいて、「池のように大きな鍋」の中に人が入って、大量のじゃがいもを踏みつぶし、「マッシュされたじゃがいもに長靴の底の模様が残」る現場を目撃したばかりに、ある時期、ものが食べられなくなった、今でも思い出したくないつらい記憶。

「長い長い、彼の話が終わった時、夕暮れはもうわたしたちの間に淡い闇を運んでい」て、話していた男の「横顔の輪郭は、その闇の奥へ吸い込まれようとしていた」らしい。このあたりの表現は、なにか人間の存在が稀薄に感じられる。静的な雰囲気を受けて、人物も風景にとけこみ、Bのだ。

そこでの「わたし」は、きつと遠くを見るような眼で相手に対していたのだろう。「黙っていると、彼の横顔が本当に消えてなくなってしまうような気」がするのも、目の前の人物の姿を透して、その奥の風景へと視線を向けているからだという気がする。その直後に「男の子は影のようにしん、と動かなかつた」とあるのも、人物描写という域を超えて、それまでの長い長い話の文脈を背景にした、「わたし」の、むしろ心理描写のように読めるのである。

まだ話の続きがあるのかと念のためにうながすと、それまでの長い長い話とは打って変わって、「そのあと僕は、ちよつとしたきつかけで泳げるようになった。そしておじいさんは、悪性腫瘍で死んだ。これで終わりです」と、不当に短く打ち切ってしまう。こんなふうに切り□□⁴で、不自然に話をはしよるのも、男の気持ちを描いているのだろう。

そして、「わたしたちはしばらく黙って夕闇を眺めたあと、立ち上がった」という文に続いて、冒頭に掲げたあの一文が現れるのだ。「ひっそりうづくまっていた時間が急に息を吹き返し、一筋、風が通り過ぎ」るのも、単なる自然描写なんかではない。ようやく我に返ったような、「わたし」が感覚的にとらえた心理であったように思われる。

(中村明『日本の一文 30選』による)

問1 空欄Aに入る最も適切な表現を次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 斜めにとらえた
- ② 俯瞰してとらえた
- ③ 正面からとらえた
- ④ 幻想的にとらえた
- ⑤ 垂直方向にとらえた

問2 傍線1「どの句にも作者の人格がしみこんでいる」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 周囲のんびとに不快な思いをさせたりすることがないように気を配る、礼儀正しく上品な人格が窺える。
- ② 老いてもなお童心を失うことなく、旺盛な好奇心と純粹無垢な気持ちをもちつづけようとする姿勢が窺える。
- ③ つらい境遇を深刻に受けとめ過ぎることなく、からかいやしやつ気を交えながら対応しようとする精神が窺える。
- ④ 社会の矛盾や不合理から眼をそらしたりせず、信念を貫き勇猛果敢に抗おうとする不屈の気構えが窺える。
- ⑤ いじらしく可憐なものや弱い立場にあるものを温かく見守り、憐憫の情を寄せようとする優しさが窺える。

問3 傍線3「《心理的時間》を描きとった」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 長いあいだ男の話に向けられ停滞していた「わたし」の意識が、本来の現実のうえに戻ったことを描きとった。
- ② 男の支離滅裂でうんざりする長い長い話からようやく解放され、晴れ晴れとした「わたし」の心境を描きとった。
- ③ 終止符が不意に打たれたことで気づかされた、男の話にすっかり夢中になっていたそれまでの「わたし」の状態を描きとった。

④ どんよりと淀んだ空気が、にわかにか起こった一陣の風により、一挙に回流するようになった自然現象を鋭く描きとった。

⑤ 日が傾いたかと思うと、すぐさま漆黒の闇があたりを覆う、冬特有の季節感に気づかされた「わたし」の驚きを描きとった。

問4 空欄Bに入る最も適切な表現を次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 読者の耳に、かすかな余韻を残す
- ② 読者に、威厳のある印象を生成する
- ③ 読者には、画中の点景と映る
- ④ 読者は、見落とせない伏線と意識する
- ⑤ 読者は、優美と醜悪の瞬間的な交差と感ずる

問5 傍線4「切り□□」が、「無愛想で突き放した話し方」という意味になるよう、□□に入る漢字二字を記せ。

問6 傍線2「室生犀星」の詩集として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 月に吠える
- ② 抒情小曲集
- ③ 山羊の歌
- ④ 智恵子抄
- ⑤ 邪宗門

問7 本文の内容と最も合致するものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 「わたし」は三〇代に見える見知らぬ男といくらか接触もしたが、結局彼を理解することはできなかった。
- ② 男の唐突で脈絡のない質問や話に戸惑いながらも、「わたし」は彼の誠実で礼儀正しい態度に深く敬意を覚えた。
- ③ 周囲の祝福を受けない困難な結婚生活をはじめようとする「わたし」は、手を差し伸べてくれた男の存在に救いを覚えた。
- ④ 幼い子連れて宗教の勧誘をするつらい状況を、男は一見つながりのない給食室とプールを重ね合わせることで興じてみせた。
- ⑤ 少年時代のつらい体験を聞くことで、その際に負った精神的な傷をいまなお癒せていないことを知り、「わたし」は男のことを気の毒に思った。

(三)

中納言は日本から唐に渡り、唐の御門の後に心引かれる。后を恋しく思つた中納言は靈験あらたかな寺に参詣して、夢のお告げを得る。その後、中納言は山陰^{さんいん}で后に似た女性と出会い、契りを交わす。後に中納言は、その女性が后本人であり、自分の子を出産したことを知る。以上を踏まえた上で、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

九月¹にもなりぬ。帰るかたもおほえず、さりとして、かくてのみ年月を過ぐさむも、さすがにあるべきことにもあらず。母上も、夜を経て夢に見え給ふ。さりとも今は、と待ち給ふにやあらむ、いかなり給ひにけむ、とどまらむこともかなしう、今ひとたび、ありし夢を見合はするかたなくて、すみやかに帰りなむも堪へがたく、中空に身を賣むる心地して、年ごろ、つねなき世のあはればかりを思ふよりほかに、さしあたりて、心づくしなることをばなくて習ひにし身の、この世もかの世も、なのめな²らぬ思ひにまどひて、道の空、波の上にて、すずろにさすらへぬべく思ひわびつつ、出で立ちやらで、ほれほれしうながめ給へり。

后も、人知れぬ若君を、女王の君、忍びてときどき見せたまつり給ふにも、心憂きものから、あやにくにあはれもかぎりなきに、中納言とどむべきにもあらざんなるを、許し取らせて、この世ながら聞きかはすべきにもあらず、ゆくへも知らず思ひなしてむも、いみじうかなしう、さりとして、このまきれあるやうもあらぬありさまをこの世にとどめ置きても、生ひ立たむほど³いかかと、ものがなしう言ひやるべきかたなし。さらでだにある世のけしきを、まいていかなることか出で来む、とおぼしづくるに、中納言、中空に思ひわび給ふ心のうちにも、をさをさ劣り給はず、ありがたう、よろづを心強う思ひとれる人ともなく、思ひわぶるさまを聞き給ひつつ、いとあはれにおほさるれば、

風さわぐ波の上なる船よりも思ひただよふ何ゆゑにぞも

とあるを見給ふ、なのめならむや。

波の上の小舟は泊りありと聞きただよふ水に思ひこがるる

*人の問ふまでほればれしうなりにけるも、あまりにならば、この世の人に思ひおとさるるたがひ目、おのづから出で来むも、今さらにあいなし。⁵大将の姫君を見捨て、母上を見置きたてまつりし心地、いかばかりかはいみじうおほえし。かばかりに思ひ立ちぬる道を、心弱くとまるべきかは、と思ひ立ちしは、かかる契りのありけるにや。たけう漕ぎ離れにしは、いふかひなくて過ぐされずやは。まいてこれは、かくてのみあるべき世にもあらず。さもあれや、と心強く思ひ立ちて、若君はおくらかすべきにもあらねば、忍びて率て渡るべき心づかひにて、はづすべうもあらぬを、后いとあはれにかなしくおほされて、いかなるべきことにかと、泣く泣く寝入り給へる夢に、「これはこの世の人にてあるべからず。日本のかためなり。ただとく渡し給へ」と人の言ふを見て、さらば、と思ふもいとあはれなり。われもかの国に生れて、母君の御身を離れて渡り来しほど、かくこそありけめ。「今は」とて別れしあかつき、抱き給ひて、いみじう泣き給ひし面影は、今に身を離れぬ心地す。そのかはりに、またこれを渡してむざるかなしさ、母君のおはしけむも、かばかりにこそありけめ。⁶ことの報い、げにあるわざにこそ、とおほしつづく。

〔浜松中納言物語〕による

注

*ありし夢……后との縁の深さについての夢。

*道の空……道の途中。

*女王の君……后の親族。中納言に后の正体と男子が生まれたことを告げた。

*この世……現世。本文中におけるその他の「この世」は、この国の意。

*人の問ふまで……「忍ぶれど色にいでにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで」に拠る。

*大将の姫君……中納言が日本に残してきた妻。

*かため……守護者。

*かの国……日本。

問1 傍線1「九月」について、その異名として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 葉月
- ② 文月
- ③ 長月
- ④ 水無月
- ⑤ 卯月

問2 傍線2「なめならぬ」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 予想できない
- ② 不覚である
- ③ 並大抵でない
- ④ 不快である
- ⑤ 虚ろである

問3 傍線3「してむ」を文法的に説明したものとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

*当該設問は試験後、正答がないことが発表されました。

- ① 「し」…動詞の一部 | 「て」…完了・強意の助動詞 | 「む」…意志の助動詞
- ② 「し」…動詞の一部 | 「て」…過去の助動詞 | 「む」…意志の助動詞
- ③ 「し」…動詞の一部 | 「て」…完了・強意の助動詞 | 「む」…推量の助動詞
- ④ 「し」…過去の助動詞 | 「て」…過去の助動詞 | 「む」…推量の助動詞
- ⑤ 「し」…過去の助動詞 | 「て」…完了・強意の助動詞 | 「む」…推量の助動詞

問4 傍線4「このまぎれあるやうもあらぬありさま」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① まちがいなく夢のお告げと合致した、后と中納言との関係
- ② 女王の君を口止めすることができない、世間の人の興味をかきたてるような出来事
- ③ 日本に残してきた母のことで思い悩む、中納言の苦しみ
- ④ 后のことを誤解した結果、唐にとどまることを決意した中納言
- ⑤ 密通が露見しないでは済まない、中納言の子であることが明確な容姿の若君

問5 傍線ア～オの動作主の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- | | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① | ア…后 | イ…中納言 | ウ…中納言 | エ…中納言 | オ…后 |
| ② | ア…中納言 | イ…后 | ウ…中納言 | エ…后 | オ…中納言 |
| ③ | ア…后 | イ…中納言 | ウ…后 | エ…中納言 | オ…后 |
| ④ | ア…后 | イ…后 | ウ…中納言 | エ…中納言 | オ…后 |
| ⑤ | ア…中納言 | イ…后 | ウ…后 | エ…后 | オ…中納言 |

問6 傍線部5「あいなし」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 日本に妻や母を残してきたため、世の中の人々が自分を見下すことがあるとしても、今さら後悔はしない。
- ② 后との関係が世に知られてしまい、無関係な人々が自分をさげすんだとしたら、今は不快である。
- ③ 恋におぼれて放心状態になって、この国の人々が自分を軽蔑するような失態があっても、今さらどうしようもない。
- ④ ただよう船のようにおぼつかない気持ちで、多くの人々が自分をばかにしたとしても、今さら道理に合わない。
- ⑤ 多くの人が理由を尋ねるくらいに陶醉状態になったとき、世間の人々がわたしをなじつても、今は気にならない。

問7 傍線部6「ことの報い」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 中納言が日本に妻を残してきたにもかかわらず后と契りを交わしたため、后は中納言と離ればなれになること。
- ② 中納言が母のことをかえりみずに唐にとどまり続けたため、中納言と后とは別れなければならぬこと。
- ③ 后の母が夫と別れて日本から唐に来たため、后もまた唐を離れて日本に行かなければならぬこと。
- ④ 后が御門の寵愛をうけてきたにもかかわらず中納言と契りを交わしたため、后は罰を覚悟しなければならぬこと。
- ⑤ 后が日本に生まれたのに母と別れて唐にきたため、后も自分の子を日本に帰る中納言に託さなければならぬこと。

問8 『浜松中納言物語』よりもあとに成立した文学作品として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① うつほ物語
- ② 源氏物語
- ③ 竹取物語
- ④ 保元物語
- ⑤ 落窪物語

(四)

次のA～Eのカタカナを漢字に改めた場合、それと同じ漢字を用いるもの、またF～Hの漢字の読みとして最も適切なものをそれぞれの群から一つ選び、その番号をマークせよ。

A キユウ殿の衛兵が交替する。

① 哲学の研キユウに没頭する。

② キユウ憩時間となった。

③ キユウ地に陥る。

④ 事件が解決できず、迷キユウ入りとなった。

⑤ 政敵にキユウ弾される。

B インフレにハク車がかかる。

① ハク愛の精神を持つ。

② 彼とは実力がハク仲するライバルだ。

③ これはハク来のウイスキーだ。

④ あたたかいハク手で迎えられる。

⑤ 三日間宿ハクする。

C 雑誌のカン頭を飾る論文。

① カン獄を舞台にしたドラマ。

② 喜びにカン声をあげる。

③ この作品が、出品作の中では圧カンだ。

④ カン静な住まい。

⑤ 空きカンを捨てる。

D 祝賀の宴にバイ席する。

① 損害のバイ償金を請求する。

② 虫が伝染病をバイ介する。

③ 癌細胞をバイ養する。

④ バイ林が花盛りである。

⑤ 裁判のバイ審員を務める。

E カメラの互カン性のあるレンズ。

① 部屋のカン気扇を回す。

② 道路がカン没する。

③ 冬になるとカン節が痛む。

④ 結核にカン染する。

⑤ 利益をカン元する。

F 大臣を更迭する。

① こうてつ

② こうてい

③ こうそう

④ こうかん

⑤ こうでい

G 会社で同盟罷業が起きた。

① らぎょう

② ひぎょう

③ りぎょう

④ らごう

⑤ りごう

H 開業資金集めに奔走する。

① とうそう

② ふんとう

③ ほんそう

④ ほんとう

⑤ ほんそう

